

ごあいさつ

国立大学法人 岡山大学
学長 千葉 喬三



岡山大学は、11 学部、7 研究科等を有する全国屈指の総合大学として中国四国地域における「学都・岡山大学」創成を目指しています。その実現には多様な人材が参画できるダイバーシティ文化、男女共同参画の一層の推進、女性の能力・資質を最大限活用できる環境づくり、女性研究者の支援・育成が極めて重要な課題であることを認識し、教職員の意識改革、諸施策の実施に日々取り組んでまいりました。

幸いにも、平成 21 年度文部科学省科学技術振興調整費「女性研究者支援モデル育成」事業に採択され、本学ダイバーシティ推進本部男女共同参画室が中心となり、「学都・岡大発女性研究者が育つ進化プラン」を推進してまいりました。事業採択を機に意識改革・啓発活動を主眼として、各種シンポジウム、交流サロンなどを開催し、更に女性研究者のサポート体制整備、働きやすい職場環境整備を推進してまいりました。今後とも女性研究者支援を強化していきたいと考えております。

今日、我が国の女性研究者に対しては、欧米諸国に比べて十分な環境整備がなされているとは必ずしも言い難い状況にあります。育児、介護、家事等も未だ女性への負担率が高く、女性研究者の研究意欲、研究活動継続を阻害している状況がみられます。本来研究活動においては女性も男性も平等な機会が与えられるべきであり、当然ながらその能力・資質を最大限発揮できる環境整備が求められます。各人のもてる能力・資質を最大限発揮していただくことで、研究のさらなる飛躍が期待され、優れた研究成果の社会への還元が期待できます。

現在、岡山大学が独自に進めているウーマン・テニユア・トラック（WTT）教員制度などの新しい試みや実践、女性研究者支援に対するさまざまな取り組みは、岡山大学にとどまらず全国的にも女性研究者支援に新風を吹き込むものと期待いたします。

これらの支援体制・環境整備は、男女を問わず全ての研究者に対するより良い研究環境整備につながるものであり、岡山大学が「学都」の名に相応しく、研究の進展・飛躍を志す方々の持てる能力・資質を最大限発揮できる環境になるものと確信いたします。

岡山大学の教員、職員、学生が、お互いに連携・協力することで、すべての構成員が一層輝きを増し、世界に羽ばたくことができる環境づくりを今後とも推進いたします。

世界に通用するすばらしいグローバル女性研究者が岡山大学から多数輩出されんことを祈念し、ご挨拶にかえさせていただきます。

はじめに

国立大学法人 岡山大学
ダイバーシティ推進本部
本部長 田中 宏二
(理事・副学長)



多様な人材が参画する共生社会の実現は、今後我が国が真摯に取り組まなければならない重要な課題であります。岡山大学では、性別、年齢、障害の有無、国籍などを超えた多様な構成員の登用の道を拓くとともに、ダイバーシティ文化の醸成に努めております。

少子高齢化が現実のものとして身近に迫った日本では、将来の労働力不足、日本経済の活力低下が危惧されます。このような状況下、女性の一層の社会進出が進み、社会の一翼を担う人材として、更には社会貢献の重要な担い手としての活躍に大きな期待がよせられることは必然的なことでもあります。また、社会の永続的発展には次世代育成が極めて重要であることは明白であります。健全なダイバーシティ文化に根ざす社会、機会均等な男女共同参画社会の実現により、少子高齢化、次世代育成問題を解決しなければなりません。

岡山大学では、平成21年1月ダイバーシティ推進本部及び男女共同参画室を設置し、男女共同参画に関する取り組みを本格的に開始いたしました。平成21年10月に策定した「岡山大学ダイバーシティポリシー」を指針とし、男性も女性も共に、それぞれのもてる資質・能力を十二分に発揮し活躍できる環境整備に努めております。

このような状況下、平成21年度文部科学省科学技術振興調整費「女性研究者支援モデル育成」事業で採択された「学都・岡大発 女性研究者が育つ進化プラン」の推進では、学内の意識改革、意識啓発活動を中心に、交流サロン、国際シンポジウム、ニュースレター発行などを行ってまいりました。

また、本学独自の新規事業、“質の高い女性研究者を積極的に雇用し、本学の将来を担う優秀な教員を育成することを目的としたウーマン・テニユア・トラック (WTT) 教員制度”が順調に船出したことは、特筆すべき成果の一つであります。平成22年4月1日付けで4名の優秀な女性教員が採用され、活発な研究・教育活動が始められています。平成21年7月開所の学童保育「かいのき児童クラブ」、10月開所の「ますかつと病児保育ルーム」は、岡山大学の次世代育成支援事業の重要な一角を担い、女性研究者の子育てを強力に支援することが可能となりました。WTT教員及び大学院生を中心とした「おかやまサイエンス・トーク」も高校生対象に平成22年度4回開催され、次世代育成に貢献してまいりました。

岡山大学が、社会の要請に応え、活力ある大学として一層の発展を目指し、世界に誇れる教育・研究環境整備を進めてまいりたいと考えております。

最後に、女性研究者の今後の活躍に大いに期待し、挨拶に代えさせていただきます。

取り組みの主旨

国立大学法人 岡山大学
ダイバーシティ推進本部 男女共同参画室
室長 沖 陽子
(岡山大学大学院環境学研究科 教授)



岡山大学は、大規模総合大学である特性、利点を活かし、加えて中国・四国地域の交通の要衝という地の利を活かし、「学都・岡山大学」として一層の発展を目指しています。

幸いにも、平成 21 年度文部科学省科学技術振興調整費「女性研究者支援モデル育成」事業に岡山大学の提案「学都・岡大発 女性研究者が育つ進化プラン」が採択されました。これを受け、岡山大学ダイバーシティ推進本部男女共同参画室が中心となり、「循環型人材育成進化プラン」を遂行し、質の高い女性研究者の雇用・育成と、その持続性を図る仕組みを構築するモデルを「学都・岡山大学」から発信しています。同時に、女性研究者の支援の充実を図っています。

さて、本学の学部生や大学院生の女子学生の比率は決して低くはありません。それなのに本学の女性研究者が少ないのはなぜでしょうか？ 女性研究者が育つ大地の整備がなされていないのでは？ 特に理系においては、女性研究者が抱える困難の克服に対する取組が遅れていました。それに気づいて、プロジェクト「進化プラン」を企画しました。すなわち、戦略的・体系的な改革を目指して「意識改革への挑戦」、「サポート体制の充実」及び「組織改革の実質化」の 3 本の柱を有機的に連携させ、雇用の促進、人材育成、環境整備に取り組むこととしました。

具体的には、理系の学部生、大学院生の女子学生が持つポテンシャルを有効に引き出す得策を駆使することが肝要と考え、彼女達をターゲットとした下記の「雇用・研究サポート体制・持続性」を保証する循環型人材育成進化プランを策定しました。

- (1)女性研究者のニーズに対応すべき「研究サポート体制」の充実。
- (2)「雇用」のチャンスを確保。
- (3)次世代の女性研究者の循環型人材育成が保証される「持続性」システムの構築。

これらの進化プランをスムーズに推進するために、人材登録バンク、相談窓口の設置、交流サロンや情報交換会、研修会等を積極的に開催しております。最も重要な環境整備は周囲の意識改革、そして結婚・出産・育児・介護が安心して行えるシステム改革であると考えています。

次世代を見据えて、女性・男性共に大いなる資質と能力が持続的に開花する環境整備を目指して、本事業を推進しております。今、撒かれた種子が発芽・生長し、立派な実が収穫できると確信しながら・・・、そして広く日本国中に発信できることを祈念しております。